

第4回 第2波対策検討ワーキング 議事要旨

日 時：令和2年6月30日（火曜日）16時00分～17時00分（web会議）

出席者：（専門家）猪口委員、神谷委員、具委員、齋藤委員、関谷委員
（東京都）梶原副知事、矢内福祉保健局技監、岩瀬福祉保健局理事、
野間福祉保健局理事、矢沢医療政策部長、成田保健政策部長、
吉田感染症危機管理担当部長、杉下新型コロナウイルス感染症対策担当部長

1 第2波に備えた組織対応力の強化・検査・医療体制の拡充に係る取組の方向性(案)について

【感染症への組織対応力の強化】

- ・ 平時・危機発生時の体制については、エマージェンシーオペレーションセンターをイメージしていると思うが、もともとの仕組みがあり危機発生時にスイッチするのか、あるいは発生時にセンターを立ち上げるのかなど、立上げのタイミングや位置づけを示す必要がある
- ・ サーベイランスは東京都健康安全研究センターが担っているが、発生動向を把握している人材がT E I T¹として外に出ており手薄
- ・ クラスタ対策の実施は第一義的には保健所であり、T E I T・クラスター班は保健所の支援という位置づけがよい
- ・ 東京都と東京都健康安全研究センターの包含関係がわかりづらい。クライシスマネジメントにおいて責任の所在を明確化するためにも組織図は重要
- ・ 中長期的にはエマージェンシーオペレーションの訓練を行うことが望ましい

【検査体制の拡充】

- ・ 検査の増強はよいが、それにより陽性者数が増えると届出処理などの事務が追い付かなくなる。保健所の人材の確保や臨時の検査場所の確保など、手当てしないと検査件数の目標数値が独り歩きしてしまう

【医療提供体制の拡充】

- ・ 感染症医療支援ドクターの養成は年単位の中長期的取組としてはよいが、それに加えて、より短期的に最低限のスキルを身に着けるためのトレーニングのコースが職種によらず必要

¹ 実地疫学調査チーム